



SERVICE CLUB TO THE YMCA

Nagoya GRAMPUS

名古屋 グランパス ワイズメンズクラブ
NAGOYA YMCA 5-29KAMIMAEZU2-CHOMENAKAKU,
NAGOYA 460 JAPAN



- ① 国際会長標語 学びと奉仕と分かち合い
- ② アジア会長標語 天地の調和を取り戻そう
- ③ 日本区理事標語 新リジョン! さあ前進!
- ④ 中部部長標語 共に勝つ!
- ⑤ 会長標語 思いやりと勇気を持って突き進もう

1997年 2月号

<今月の聖句>

ともし火をともし、それを器で覆い隠したり、寝台の下に置いたりする人はいない。入って来る人に光が見えるように、燭台の上に置く。隠れているもので、あらわにならないものはなく、秘められたもので、人に知れず、公にならないものはない。
ルカによる福音書 第8章16~17節

**日本区大会まであと128日
がんばれグランパス! 119名登録**

1997年2月例会のご案内

◎ **第一例会**

と き : 2月12日(水) 19時より
と ころ : 名古屋YMCA 407号
プ ロ グ ラ ム : グランパス上半期総会
新年度役員発表

◎ **第二例会会**

と き : 2月25日(火) 19時より
と ころ : 名古屋YMCA 407号

日本区実行委員会

と き : 2月4日(火) 19時より
と ころ : 名古屋YMCA 407号

◎ **3月1日(土) 2日(日)**

**一泊2日、日本区実行委員会を開催!
必ず全員必ず参加!**

◎ **ブリテン委員会**

と き : 2月27日(木) 19時より

第一例会報告

皆さん今日は、グランパス恒例の新年オークションを無事終了いたしました。今回は出品の点数の割にめばしい品が薄く感じ、そのためか競り合う声も乏しくなかなか金額があがりませんでした。世の中の景気の低迷がいよいよグランパスの中まで浸透してきたのかな、と感じるオークションでした。それでも¥28,100のご協力を皆様より頂戴できたことに深く感謝したいと思います。

井川 幸吉



1 月 27 日	例会出席状況				BFポイント		クラブファンド(月)	
	在籍者	20名	第1例会	14名	当月・切手		ニコBOXノト	¥0
	例会出席者	18名	第2例会	12名	当月・現金		ファンド	¥41,950
	当月出席率	90%	部会 他	18名	累 計		合 計	¥41,950

外から見たワイズメンズ

part4 (ワイズメンズの妻たち)

今月はいつも特別プログラムで何かと手伝っていただく、坂倉 洋君のメネットにお願いいたしました。

今回、外から見たワイズメンズ「ワイズメンズの妻たち」というテーマをいただいてしまいました。なんで?! どうして私が? これは絶対人選ミス。何を書いたらいいのかしら…。愚痴しか出てこない。

私は、正直なところ今だにワイズメンズクラブがどんな団体なのかよく解っておりません。主人は小学生の頃からYMCAのキャンプに行き、その後中学高校の頃もプログラムに参加、大学生になってリーダーを。社会人になってからはフィットネスクラブにとYMCAから離れられないようです。

そんな彼ですから例会のある日「今日Y'sなんだ」とうれしそうにしている姿を見、なんだか私には学生の頃リーダー達が集まってワイワイ楽しくやっていた延長線にしか思えず、毎日の子育て、家事に疲れている私はずい「いいよネ～楽しいことがあって、変わりに行っただげるよ、子供見ててよ」「エー! 大変なんだから。」と口では言い、うれしそうに出かけていく彼でした。

社会に対して奉仕をする これはとっっても大切な事だと思います。子供たちにも参加できることがあればなるべく体験させてあげたく思います。でもでももっと大切なのは家庭が安定していることだと思います。ワイズメンのご主人方、奥様や子供が2番目になっていませんか? これは我が家だけなのではないでしょうか。メネットの皆様は、どうやってご主人を支えていらっしゃいますか。

あきらめ、忍耐で主人だけ参加するのではなく、家族みんなで(我が家の子供はまだ一番下が2才なのでその子も)参加できる方法はないのでしょうか。お金持ちのおじさまたちの集まりというイメージで良いのでしょうか? もっと肩をはずらず、自然な気持ちで、皆で参加したいなあって思っております

テーマからはずれ、主人へのぐちになってしまったのでしょうか、おゆるしてください。でも、基本的にはお手伝いできることは積極的にしたいと思っております。これからもよろしくおねがいします。

坂倉 加代子

'96-'97 出席表 97.1.27

NO	例会 氏名	1/7	1/14	1/17	1/21						
		第一例会	大会委員会	大会委員会	第二例会						
1	阿部 一雄	/	/	/	/						
2	荒川 恭次	○	○	○	○						
3	井川 幸吉	○	/	/	○						
4	池野 輝昭	○	○	○	/						
5	馬場寅太郎	○	○	/	/						
6	尾崎 史忠	○	○	/	/						
7	加藤 道子	○	○	/	○						
8	加藤 元紹	○	○	/	/						
9	坂口 功裕	○	○	○	○						
10	坂倉 洋	○	/	/	○						
11	佐藤 壽晃	/	/	/	○						
12	真田 幸治	/	/	/	/						
13	丹羽 真清	/	○	/	○						
14	服部 庄三	○	○	/	○						
15	坂野 清治	○	○	/	○						
16	深谷 裕子	○	/	/	/						
17	三井 秀和	○	○	○	○						
18	吉田 一誠	/	○	/	○						
19	吉田 正	/	○	○	/						
20	木野村 映	○	○	○	○						

ハッピーバースデー

- メバ - 8日 三井秀和
- 10日 井川幸吉
- 10日 坂野清治
- 16日 加藤元紹
- メネット 19日 井川君代
- コメント 7日 服部圭三
- 23日 木野村剣太郎



(メンバーその2)

(なぜ、ガイアシンフォニー上映の企画に参加したのか?)

初めてこの企画の話聞いた時、あまり深く考えていなくて、ただ祭り気分で「おもしろそう! やろうやろう!」というのが、第1のリアクションで、楽しそうだからやってみようというのが正直なところ理由の一つでした。『地球交響曲』に流れるものに関わってみたい。そして、体験する中で何かを学んだらと思う参加しました。でも、途中、主催者側に立ちきれない自分を見たり、今までの自分の人とのつながり方が見えてきたり、また、お金の面での心配など不安を持ちました。最後までやれたのは、グループのみんなと共に支えられたからだと思います。終わってみて分かったことは、「見えない」と思っていたことは、実は「見える」世界にちゃんと具現化されているということ。事実の中に、自分の想いや行動の目的があるということです。今、もう一度、自分や人や自然の声を聴きたいと思っています。

(メンバーその3)

「わたしを取り巻くあらゆるもの(人)に対して、わたしは“仲間”という意識を持って扱ったことがあったらどうか?」「“協力”という言葉を使いながら実際は“競争”をしていたんじゃない?」この言葉を、わたしは自分に問いかけ続けています。今回の企画を通じて、わたしは初めて“協力”や“仲間”という言葉の意味を考えました。わたしの中で、ようやく何か動きだそうとしているような、そんな気がします。

爺ガ岳ファミリースキー

1月11日12日の1泊2日で昨年と同じ爺ガ岳で行なわれました。3回目となった今年は総勢34名となりにぎやかで楽しいプログラムでした。正月明け雪がなくハラハラしておりましたが2~3日前から冷え込み雪もOK。9日に坂口兄が高熱でキャンセルというアクシデントが起り坂口車にのせてもらう予定だった人達がさあ大変。でも尾崎兄が参加し車を出してもらい皆無事予定どおりスキーをすることが出来、感謝感謝。

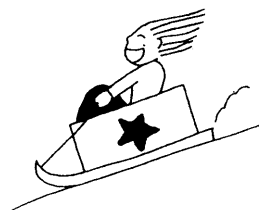
夜は6畳程の部屋に大人22名が集まり、大いに盛り上がりました。スノーボードチーム、吉田正スキースクール、加藤元紹鹿島槍スキースクール&撮影会、好き勝手チームなどがあり各自十分自然の中で楽しめたのではないでしようか。

また来年1月の第2土・日曜日に同じ爺ガ岳でファミリースキーが行なわれます。皆さんぜひご参加ください。 坂倉 加代子



新年オークションご協力一覧

	氏名	購入合計	出品合計	合計(円)
1	阿部 一雄			
2	荒川 恭次	3,600	3,800	37.0
3	井川 幸吉	2,100	0	10.5
4	池野 輝昭	1,000	0	5.0
5	馬場寅太郎	2,500	0	12.5
6	尾崎 史忠		2,800	14.0
7	加藤 道子	300	1,400	8.5
8	加藤 元紹	4,300	1,300	28.0
9	坂口 功裕	2,200	4,000	31.0
10	坂倉 洋	2,600	1,700	21.5
11	佐藤 壽晃			
12	真田 幸治			
13	丹羽 真清		2,500	12.5
14	服部 庄三	1,700	5,700	37.0
15	坂野 清治	1,600	1,400	15.0
16	深谷 裕子	700	1,500	11.0
17	三井 秀和	4,000	0	20.0
18	吉田 一誠			
19	吉田 正			
20	木野村 映	1,000	2,000	15.0



Michiko

映画「地球交響曲」 ギアシンフォニーについて

年頭に知り合いから、映画を自主上映したグループの手記が送られてきました。それを読んで、6月の日本区大会をホストするグランパスの一人である自分の立場と合い通じるものを感じました。日本区大会に責任を持って、どのように取り組んでいくか、また、大会成功と共に、自分にとって手応えが有り、何かを確実に学べる大切な大会にしていきたいと強く感じました。

自主上映したのは「ギアシンフォニー（地球交響曲）」という映画です。この映画自体、心の持ち方一つで、人間＝自然は、今の常識をはるかに越えることができる、ということを実写と映像で示したドキュメンタリーで、自主上映したメンバー達の心の持ち方に変化を与え“気づき”が生まれたのかもしれない。

このグループは、6人という少人数、しかもわずか3ヶ月間で700人の観客数を集め、映画上映だけでなく、監督のトークも企画しました。私も当日観に行きましたが、大盛況の様子でした。また、映画の最中にハプニング（急病人）が起きたにもかかわらず、ほとんどの観客に気づかれず、スムーズに対応していました。この手記を読んで、このグループが成功したのは、上映までの準備が、精神的にもできていた結果だとつくづく感じました。

日本区大会をホストするというまたとないチャンスに恵まれ、日本区大会に向けて、一人一人が心の持ち方を考えられたらいいですね。私が入手出来たメンバーの手記の抜粋を参考にさせていただけたらと思います。

『手記の抜粋』（グループのリーダーより）

『ギアシンフォニー第1番・第2番の上映と監督のトーク』。どうしても実現したい企画だったので、お世話を引き受けました。イベントのタイトルは、参加者一人一人が主人公であってほしいと『あなたが奏でるギアシンフォニーの集い』と決めました。週1回夜2時間のミーティングが命です。実際に作業にむけてミーティングの中でしたことは、それぞれの思考・行動が協力的か競争的かのチェックでした。協力的だと思うのに競争的ということが見えていきます。それに気付くたびに、エッ！ゾッ…！悔しくて、涙しながら取り組むこともしばしばでした。気づき、認め、取り組む。この作業を通じて、私たちは、少しずつ、愛を紡ぐ事を身につけていったように思います。大きなイベントは全く初めての私たち。でも妥協はしたくない。赤字覚悟で取り組みました。ところが、私たちの予測をはるかに上回る人たちが、参加を希望してくださいました。お陰様で思いが実り、阪神大震災から1年の1996年1月21日、会場から聴こえてくるシンフォニーに私たちは心癒される1日を過ごしました。私は、それまでの1年、震災の惨事を目の当たりにして「私にできることは？」と揺れては我が身を知る1年でしたが、その日から、揺れがゆらぎに変わったようでした。これまでになく、静かで心深く染み入るような時を過ごしている気がします。

（メンバーその1）

それは、いつもの軽いのりで始まった。

「ギアシンフォニーの上映とトークの主催をしてみない？」。との呼びかけに そんな大きな企画に参加できる幸運に有頂天になって、メンバーに加わることを即決したのだ。

そして、その軽いのりが重い気持ちへと変化するのも、そんなに時間はかからなかった。数日で、現実はあるさまに私の無責任さを照らし出し始めた。話のあいまいさを詰めない、遅刻、言ったこと・言わなかったことには責任が生じることも、後半になってようやく意識にのぼってきた感じだった。出るわ出るわの目の覆いたくなる現実。全知全能を夢見てた自分とのギャップのあまり大きさに「あー。」と言いながらうなだれる私に、勇気づけを与え続けてくれたメンバーに助けられて、ようやく私は自分の言動に注意深く、ちよつとクールに目をやるようになった。